

**第三回 システム企画研究会 議事録**

**日時:** 2012/04/13(金)14:00~17:00

**会場:** 大阪丸紅ビル 13F E 共用会議室

**テーマ:** 研究者が語る、これからのクラウドコンピューティング

**講演者:** ~今の商用クラウドはイントロに過ぎない~

東京大学 情報基盤センター 准教授

関谷 勇司 氏

**司会・進行:** システム企画研究会 座長

株式会社日本経営 情報システム部 次長

岡 倫宏 氏

当研究会の運営方針により、個人/会社名を特定できる発言、および発表者から公開の許可を得られなかった内容は 議事録より削除されています。あらかじめご了承ください。

◆第1部◆

関谷氏のご講演

◆第二部◆

<自己紹介>

・クラウドでセールスフォースを利用しているのですが、社内でシステム監査の担当をしており、クラウドを利用しているときの監査に悩んでいます。社内にクラウドの利便性について、どのように社内に伝えるのかが課題です。

・自社内の一部のシステムをデータセンターに移管しました。今回は、クラウドの情報収集のため参加しました。

・2年前までは情報システム部を担当しており、現在は車のナビ開発を担当しています。クラウドの動向について情報収集するため参加しました。

・普段はクラウド(PaaS)を提供している立場なので、今回の講演で何か気づきがあればと思い参加しました。

・ERPを提供しています。

クラウドへデータをアップロードする際に、社内情報を一度ローカルダウンロードしましたが、後でクラウドへアップロードをすることが内部統制として問題ないのか心配です。何か今日の研究会で参考になることがあればと思い、参加しました。

・クラウドを提供する立場です。年末にクラウドへマイグレーションを行いました。社内運用工数が導入前後で変わらないことの指摘がありました。どのようにお客さまへ説明すれば納得していただけるのか考察するため参加しました。

・社内ではクラウドとして Google Apps を利用しています。利用するにあたって、ユーザ ID とパスワードだけではセキュリティ上問題ないのか心配です。また、今後のクラウドの方向性を勉強するため参加しました。

・ソフト開発会社で社内インフラ兼お客さまへ提案する立場です。

クラウドを提案するときに懸案になるのはネットワークの透過性だと感じています。クラウドの動向と何年後にどのようなクラウドがコンシューマ向けに利用されるのか話を伺いたいです。

- ・一部データセンターの運用、検証を行っています。研究者視点でのクラウドの話を伺うため参加しました。
- ・一人で情報システムの保守を行っています。クラウドの今後に関する方法についての情報を収集する為に参加しました。
- ・メールとグループウェアはクラウドを導入済みです
- ・研究会には初参加です。受託ソフト開発しております。  
クラウド型で開発できないかという問い合わせが多くなってきたのですが、クラウドが個々のお客様のニーズを満たすのか？という点でビジネスとして成り立つのか疑問に感じています。
- ・クラウドの話題性と経営層が新しい物好きということもあり、勉強するために参加しました。

=====

<以下、ディスカッション>

・関谷氏：(自己紹介を伺ってからのコメント)

クラウドを利用するにあたり、リスクとコストの両面を考慮していく必要があります。利便性とセキュリティはトレードオフの関係にあるため、現在研究が行われているクラウドがどのように実用化されるかは市場で判断されると思います。

・Q 岡氏：(参加者にたいしての質問)クラウドを利用している企業はありますか？

→(約半分が挙手)

→Q 岡氏：なぜクラウドを利用しているのでしょうか？また、その効果は何でしょうか？

→上層部がクラウドを使ってみたくて言っている為です。

#### ■クラウド提供側の SLA について

・Q: SLA は事業者によって基準にバラつきがありますが、標準はあるのでしょうか？

→岡氏: SLA は標準化されておりましたが、目標数値みたいなものですね。ただし、クラウド事業者側が定めた SLA 水準に利用者が OK とするのか、または、利用者側が定めた SLA に対してクラウド事業者が合わせるのかという問題が起こってきます。

→私は、SLA には2つあると考えています。

1. お客さんのサービスレベルを満たすためのもの(従来の SLA)
  - ・システムが業務にあわせる
2. クラウド事業者側からお客さまに対して一方通行で示すもの。(クラウドの SLA)
  - ・業務がシステムにあわせる

・Q 利用者が事業者に対して SLA を求めすぎなのではないでしょうか？

→岡氏:クラウドの場合はクラウド事業者側に合わせなさいということでしょうか？

→クラウド提供側: そうあります(苦笑)クラウド事業者の SLA を確認のうえ、自社でマッチするのであればクラウドを利用することが理想です。

・自社で技術者を持たない代わりにクラウド利用を行う企業もあります。

・情報システム部門の人員が減っており、技術がわからないままクラウドを利用すると落とし穴があります。また、クラウドを利用するにあたって、オラクルが問題になります。理由として、ライセンスがコア数による課金であること、また、その他の部分でも多くなったりします。また、場合によってはオンプレミスと組み合わせ、クラウドに乗せるものとオンプレミスのものを工夫して構築を行います。(ハイブリットクラウド)

#### ■クラウド=コストカットという経営者に向けて

→クラウド導入するからといって安くはなりません。

→ハードの運用管理はなくなりますが、実運用管理はわかりません。また、ヘルプデスクなどの人件費工数などに関しては減りません。その結果、2重管理となり運用コストが高くなることも考えられます。

#### ■ネットワークの透明化

・クラウドを利用するに当たり、オンプレミスの環境でも、クラウドでも運用コストはほぼ変わりません。ポイントはクラウド特有の付加価値がないという事です。

・クラウドのための独自技術がまだ登場していないので、運用者の負担を減らすサービスがないと、しばらくクラウドが浸透することはないのではないのでしょうか？

#### ■関谷氏:クラウドに移行する背景

・社内の技術に関して詳しい人が徐々に減ってきており、このような状態でクラウドなどへ移行を行うため、システムの運用に対する責任が持たなくなっています。

#### ■データセンター利用状況

・3.11 の東日本大震災の影響により 5 月に引き合いが最も多かったですが、5 月以降は引き合いが少なくなりました。つまり、5 月までに BCP 対策としてデータセンターへの移行やクラウドを利用した企業が多いですが、5 月を過ぎてからは利用されない傾向にあると言えます。

ただし、自社でどのくらいの運用を行っているかを明確にしていない状態で外部へデータセンターの運用なども任せる場合、外部に対して無理な運用を押し付けている場合もあるのでデータセンターの利用者側にも問題があります。

一方、社内システムの一部をデータセンターやクラウドへ移行することで、運用管理者の負担が減り他の事ができることがメリットにはなります。

24 時間稼働を管理しなければならないシステムをアウトソーシングをすることで、インシデント発生時でもデータセンター側での問題になるので、管理者がオンプレミスの環境で運用管理をすることと比較すると、負担が少なくなります。(管理者が夜に眠れるようになる)

===まとめ===

クラウドは何のために使うのか？

・システムをクラウドにすることで、運用負担を減らし

⇒責任の所在を明確にし、責任のたらいまわしを回避する

⇒運用管理者が他の事を出来るようになる

⇒運用管理者が夜眠れるようにするため